



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年7月31日

上場会社名 トランス・コスモス株式会社
 コード番号 9715 URL <https://www.trans-cosmos.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼COO (氏名) 奥田 昌孝
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理財務本部長 (氏名) 野口 誠
 四半期報告書提出予定日 2020年8月5日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 050-1748-0265

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	78,485	7.1	3,342	144.4	3,421	169.0	1,722	268.1
2020年3月期第1四半期	73,295	9.3	1,367	—	1,271	169.1	468	80.8

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 1,789百万円 (—%) 2020年3月期第1四半期 108百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	41.54	—
2020年3月期第1四半期	11.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	158,445	77,791	46.6	1,780.00
2020年3月期	143,985	77,969	51.5	1,788.95

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 73,825百万円 2020年3月期 74,196百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	46.00	46.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2021年3月期の配当予想は未定であります。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

当期の連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。なお、当該理由等は、【添付資料】P.3「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	48,794,046 株	2020年3月期	48,794,046 株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	7,319,161 株	2020年3月期	7,319,064 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	41,474,957 株	2020年3月期1Q	41,475,232 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・決算補足説明資料は2020年7月31日(金)に当社ウェブサイトに掲載します。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、世界規模で拡大する新型コロナウイルス感染症に伴い、外出自粛や休業要請、緊急事態宣言の発出などの影響により、個人消費や企業活動が著しく制限され、急速に景気が悪化しました。また、新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たない中、先行きは極めて不透明な状況が続いております。

当社グループが展開するサービスを取り巻く環境は、労働人口の減少、IoT・AIをはじめとしたデジタル技術の進展などを背景に、引き続き、業務の効率化やコスト競争力の強化、売上拡大などに繋がるアウトソーシングサービスの需要が拡大しています。また、企業経営を取り巻く環境は大きく変化しており、新しい働き方として急速に普及しつつあるテレワークをはじめとした新たなサービス需要も顕在化しつつあります。

このような状況の中、当社グループは、引き続き、デジタルトランスフォーメーションパートナーとして企業の経営、事業の変革を支援するDEC・BPOサービスを積極的に展開し、受注の増加につなげました。また、国内外におけるサービスの競争力強化や、顕在化する新たな需要・ニーズに対応すべく、引き続きデジタル技術などを活用したサービスの展開やサービス体制の強化に取り組みました。

具体的には、国内においては、EC事業の立上げ、運営、課題解決などを幅広く支援するため、世界最大級シェアのECプラットフォームであるShopify（ショッピングファイ）を起点としたECワンストップサービスの提供を開始しました。また、ウェビナー（オンラインセミナー）を活用しBtoB企業の良質なリード獲得をワンストップで支援するため、当社連結子会社である株式会社Jストリームと共同でオンラインセールス支援サービスを提供開始しました。さらに、テレワークの環境整備、新型コロナウイルスによる問い合わせ量の増加といった課題解決の支援に向け、アマゾン ウェブ サービス ジャパンのクラウド型コンタクトセンターサービスとAI対話サービスを連携し従来よりも素早く低コストでスタートできる「音声AIによる自動応答サービス」を提供開始しました。また、コーポレートバックオフィスサービス、人事や経理財務業務の支援を中心にサービスを提供する拠点として、長崎県長崎市に新たなオペレーション拠点「BPOセンター長崎中央」を設立するなど、サービス体制の強化を図りました。

海外では、米国市場向けに、米国カリフォルニア州で2020年7月より本格施行される消費者プライバシー法 CCPA（California Consumer Privacy Act）に対応する「オプトアウト受付コンタクトセンターサービス」の提供を開始しました。今後は在米企業に限らず、カリフォルニア州にユーザーをもつ日本法人のお客様企業への提供を目指します。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高78,485百万円となり前年同期比7.1%の増収となりました。利益につきましては、売上高の増加および収益性の改善などにより、営業利益は3,342百万円となり前年同期比144.4%の増益、経常利益は3,421百万円となり前年同期比169.0%の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,722百万円となり前年同期比268.1%の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(単体サービス)

当社におけるアウトソーシングサービスの需要拡大などにより、売上高は56,749百万円と前年同期比6.5%の増収となりました。セグメント利益は、既存の大型業務の採算性改善や大型スポット業務の獲得などにより、2,357百万円と前年同期比137.8%の増益となりました。

(国内関係会社)

国内関係会社につきましては、前第3四半期連結会計期間から一部子会社を連結の範囲に含めた影響や、受注が好調に推移したことなどにより、売上高は8,790百万円と前年同期比39.6%の増収となり、セグメント利益につきましては、一部上場子会社の収益性改善などにより617百万円と前年同期比30.5%の増益となりました。

(海外関係会社)

海外関係会社につきましては、主に中国や韓国における子会社の為替変動の影響により、売上高は15,688百万円と前年同期比1.5%の減収となりました。一方、損益については、中国、韓国子会社を中心に収益性が改善し、セグメント利益は362百万円（前年同期はセグメント損失93百万円）となりました。

なお、セグメント利益につきましては、四半期連結損益計算書における営業利益をベースにしております。

(新型コロナウイルス感染拡大に関する当社グループへの影響)

新型コロナウイルス感染拡大に関する当社グループへの影響は、依然として不確実性が高いものの、外出やイベント・キャンペーンの自粛など行政機関からの指示・要請や、感染拡大防止、従業員の安全確保を最優先とした対策などに伴い、新規案件の減少や一部既存業務の縮小、オペレーションセンターの一時的な稼働率低下といった影響が発生しつつあります。その一方で、行政機関をはじめとした新型コロナウイルス対策関連業務の支援に繋がるサービスや、企業の業務プロセスのデジタルシフト支援を通じた在宅ワークの普及促進、事業継続などを支援するサービスなどにおいて引き合いが増加しています。

引き続き、社内外への感染拡大の防止と従業員ひとりひとりの安全確保を最優先とした上で、当社が担っている社会的責任をできる限り果たしていきます。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて14,460百万円増加し、158,445百万円となりました。主な要因は、当社における借入金の増加による「現金及び預金」の増加であります。

負債の部につきましては、当社における新規借入による「長期借入金」の増加や、当期支給対象期間分の引当積み増しによる「賞与引当金」の増加などで前連結会計年度末に比べて14,638百万円増加し、80,654百万円となりました。

純資産の部につきましては、178百万円減少し、77,791百万円となり、自己資本比率は46.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期については、いまだ新型コロナウイルス感染の収束時期や感染拡大による影響が全く見通せず不透明感の強い状況にあります。引き続きお客様企業の売上拡大・コスト最適化といったニーズに対し、より適合したサービスの創出に注力するとともに、アジア市場を中心としたグローバルで事業展開を加速させ、前期実績を上回る業績を確保することを目指します。

なお、当社グループの事業は、あらゆる業種・業界のお客様との取引で成り立っており、変化の激しい経済環境の中、短期的な視点で企業活動の動向を見極めることは大変困難であります。よって、当社グループの2021年3月期連結業績予想については、合理的な算定ができないため記載しておりません。

また新型コロナウイルスの感染拡大の影響が長期化することで、当社グループのオペレーションセンターの閉鎖・縮小、さらなる企業活動の自粛に伴うサービスの需給バランスの崩れなどによって、当社グループの業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	35,012	47,904
受取手形及び売掛金	49,793	47,718
商品及び製品	4,420	3,252
仕掛品	1,088	1,312
貯蔵品	56	241
その他	6,954	7,972
貸倒引当金	△403	△272
流動資産合計	96,922	108,128
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,486	5,723
工具、器具及び備品（純額）	4,390	4,490
土地	825	819
その他（純額）	977	1,087
有形固定資産合計	11,679	12,120
無形固定資産		
のれん	778	975
ソフトウェア	2,806	2,761
その他	729	741
無形固定資産合計	4,314	4,479
投資その他の資産		
投資有価証券	7,196	8,611
関係会社株式	5,506	9,501
関係会社出資金	6,092	1,070
繰延税金資産	2,183	4,197
差入保証金	9,289	9,459
その他	1,088	1,187
貸倒引当金	△288	△311
投資その他の資産合計	31,068	33,716
固定資産合計	47,062	50,316
資産合計	143,985	158,445

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	12,808	9,500
短期借入金	3,057	2,121
1年内償還予定の社債	28	28
1年内償還予定の転換社債型 新株予約権付社債	10,007	10,004
1年内返済予定の長期借入金	83	91
未払金	6,809	5,829
未払費用	14,512	14,633
未払法人税等	3,151	3,576
未払消費税等	4,830	4,917
賞与引当金	4,766	6,627
その他	3,377	4,300
流動負債合計	63,432	61,630
固定負債		
社債	114	110
長期借入金	142	16,218
繰延税金負債	895	1,202
退職給付に係る負債	295	293
その他	1,136	1,198
固定負債合計	2,583	19,023
負債合計	66,015	80,654
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,065	29,065
資本剰余金	17,778	17,778
利益剰余金	41,061	40,861
自己株式	△15,236	△15,236
株主資本合計	72,669	72,469
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,204	4,271
為替換算調整勘定	△1,677	△2,915
その他の包括利益累計額合計	1,527	1,355
新株予約権	3	3
非支配株主持分	3,769	3,963
純資産合計	77,969	77,791
負債純資産合計	143,985	158,445

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	73,295	78,485
売上原価	61,217	63,155
売上総利益	12,078	15,330
販売費及び一般管理費	10,710	11,988
営業利益	1,367	3,342
営業外収益		
受取利息	42	27
受取配当金	11	5
為替差益	—	168
助成金収入	34	65
その他	24	48
営業外収益合計	112	315
営業外費用		
支払利息	12	25
持分法による投資損失	—	166
為替差損	122	—
その他	73	45
営業外費用合計	208	236
経常利益	1,271	3,421
特別利益		
投資有価証券売却益	24	103
企業立地助成金等	37	18
段階取得に係る差益	26	—
その他	13	13
特別利益合計	101	135
特別損失		
減損損失	5	41
その他	54	11
特別損失合計	60	53
税金等調整前四半期純利益	1,313	3,504
法人税、住民税及び事業税	1,090	3,610
法人税等調整額	△400	△2,080
法人税等合計	689	1,530
四半期純利益	624	1,973
非支配株主に帰属する四半期純利益	156	250
親会社株主に帰属する四半期純利益	468	1,722

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	624	1,973
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△620	1,054
為替換算調整勘定	102	△738
持分法適用会社に対する持分相当額	2	△500
その他の包括利益合計	△515	△183
四半期包括利益	108	1,789
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△45	1,551
非支配株主に係る四半期包括利益	154	238

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	単体 サービス	国内 関係会社	海外 関係会社	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	53,095	5,454	14,745	73,295	—	73,295
セグメント間の内部 売上高または振替高	184	839	1,175	2,199	△2,199	—
計	53,279	6,294	15,921	75,495	△2,199	73,295
セグメント利益 または損失 (△)	991	473	△93	1,370	△3	1,367

(注) 1 セグメント利益または損失 (△) の調整額△3百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益または損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	単体 サービス	国内 関係会社	海外 関係会社	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	56,508	7,413	14,563	78,485	—	78,485
セグメント間の内部 売上高または振替高	241	1,376	1,124	2,742	△2,742	—
計	56,749	8,790	15,688	81,228	△2,742	78,485
セグメント利益	2,357	617	362	3,336	5	3,342

(注) 1 セグメント利益の調整額5百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。